

地球惑星科学 II

第10回

2018年12月13日

前回のミニレポート

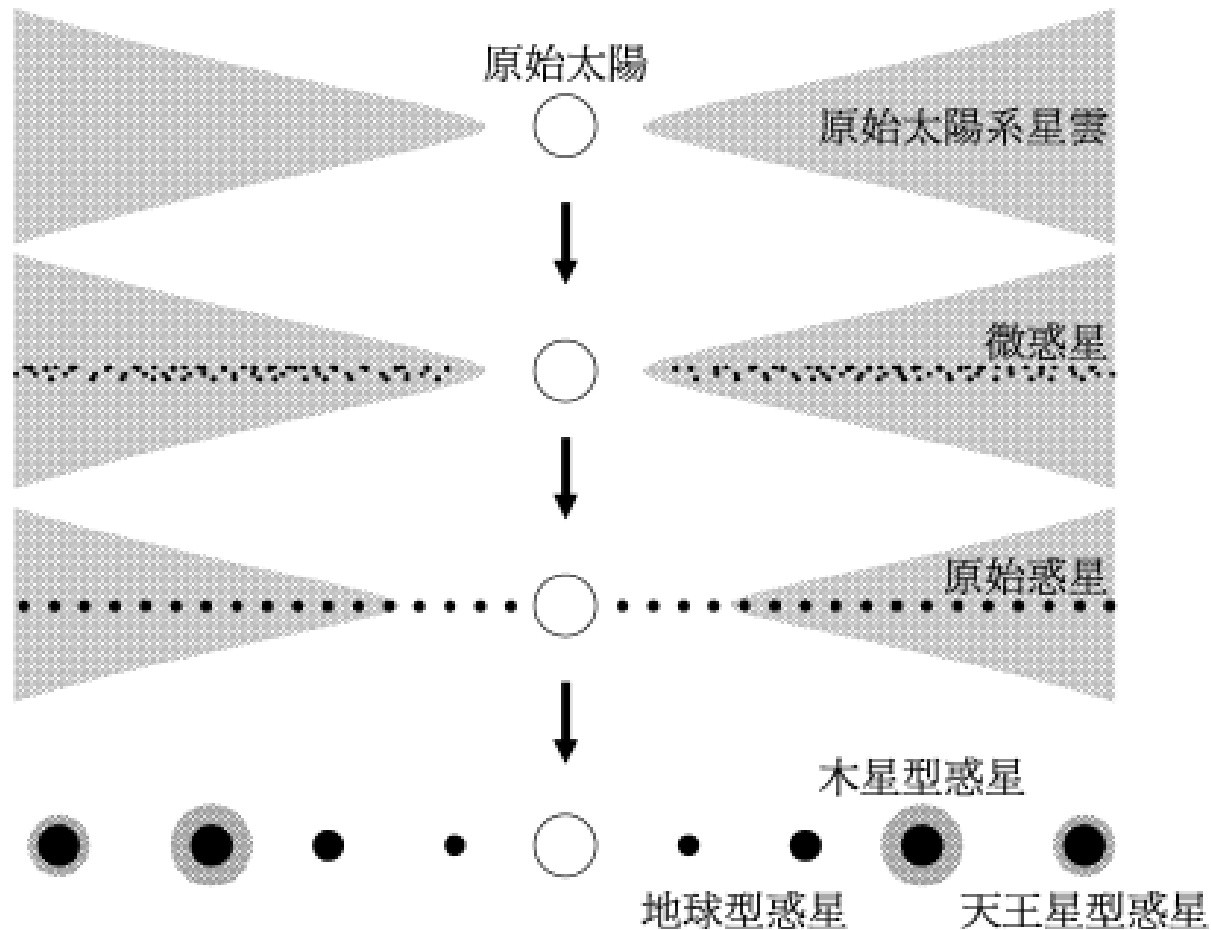
- 惑星・宇宙に関してどのような観測・探査を行うと良いか？
 - なぜそのような観測をおこなうのか？
(何が知りたいか？)
 - 観測対象、観測する物理量、観測方法なども説明してください
 - 予算は無尽蔵にあるとして良い
 - 思いつく限りたくさん書いてください

ミニレポート回答例

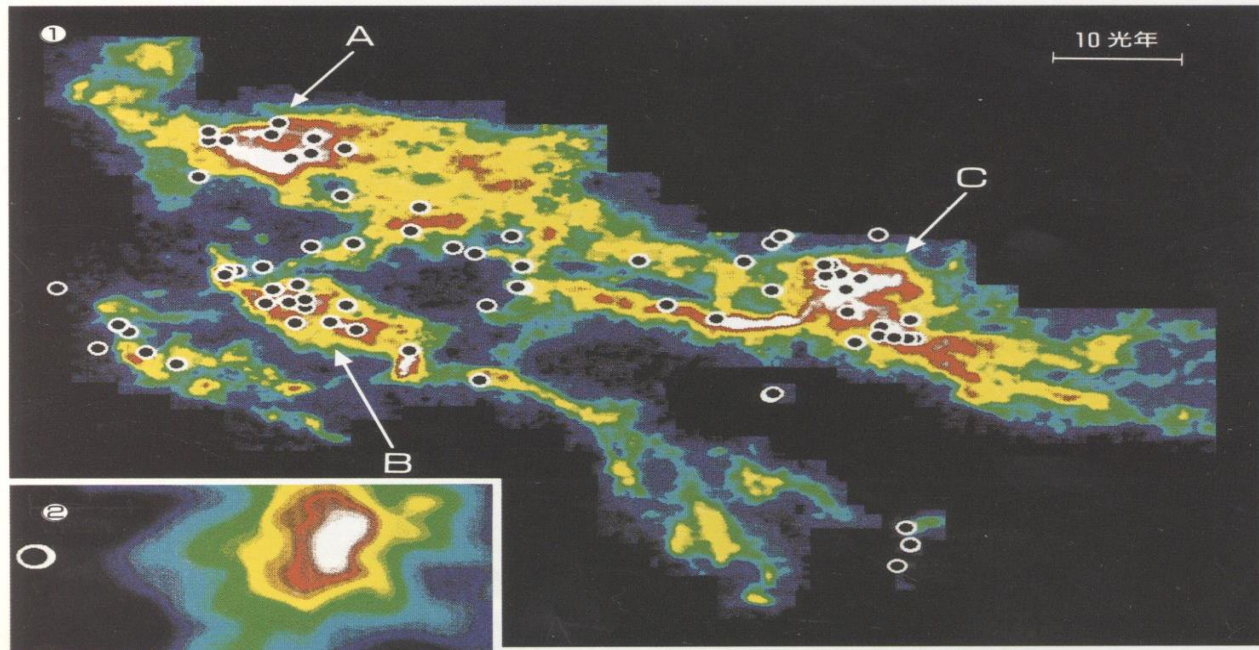
- ちょっと無理かも
 - できる限り遠くまで観測機器を！
 - レーザーを放射！
- 非常に具体的なプラン
 - 小惑星をラグランジュポイントまで持ってくる。核爆弾で小惑星を分断すれば動くと思う。月に落としてクレーター形成を調べてもおもしろいかも
- 質問
 - ガスでできた惑星がなぜ球体を維持しているのか？
 - 星座を構成する星はなぜその位置を保てるのか？
 - 彗星から氷が蒸発した分彗星の質量は減るのか？その氷はどこから来たのか？

今日のテーマ

- 地球および太陽系はどのようにできたのか？
- 参照：地球惑星科学入門32章



惑星系の生まれる場所：星間分子雲



星間分子雲
から星、星雲が
生まれる

一酸化炭素が放出する電波によって観測した牡牛座分子雲
「福井・水野(1994)科学,64巻」より転載

- 星から放出されたガスが集合
- 主成分：水素（75%）、ヘリウム（24%）
- 直径は10～100光年。質量は太陽の100～100万倍
- 温度は10～50K
- 太陽系の場合、収縮開始は46億年前

暗黒星雲

馬頭星雲(オリオン座)



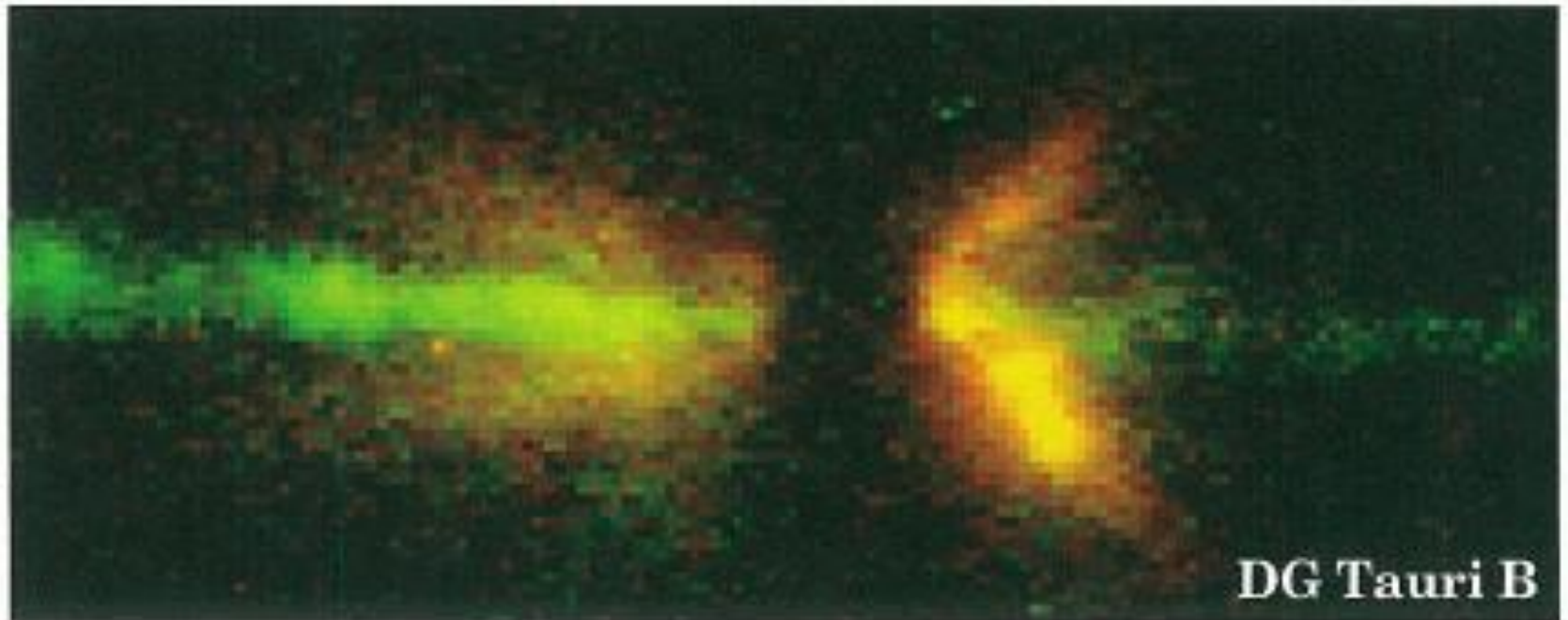
地学図表P.46



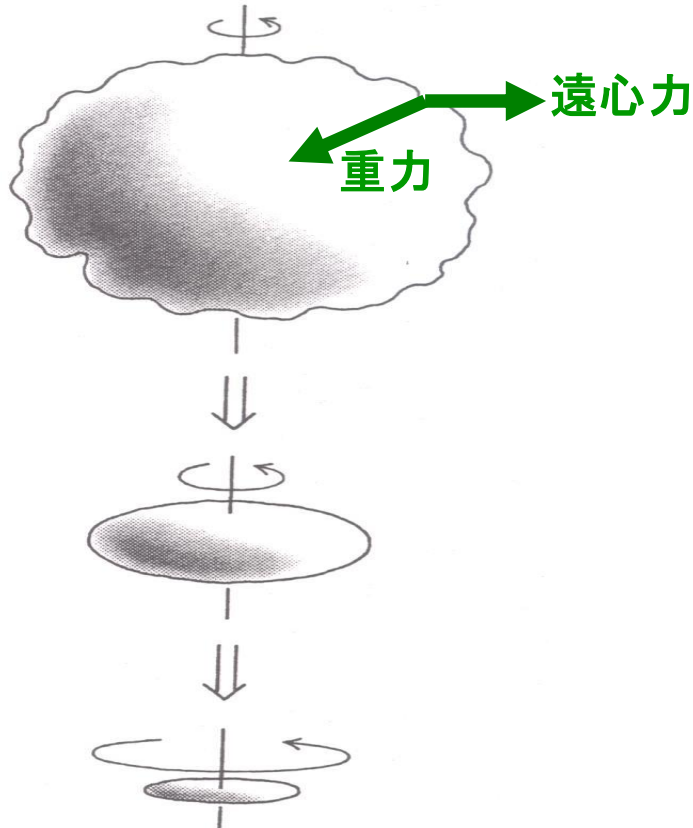
http://www.nasa.gov/multimedia/imagegallery/image_feature_89.1

恒星の誕生

地学図表P.42



原始太陽系円盤の形成

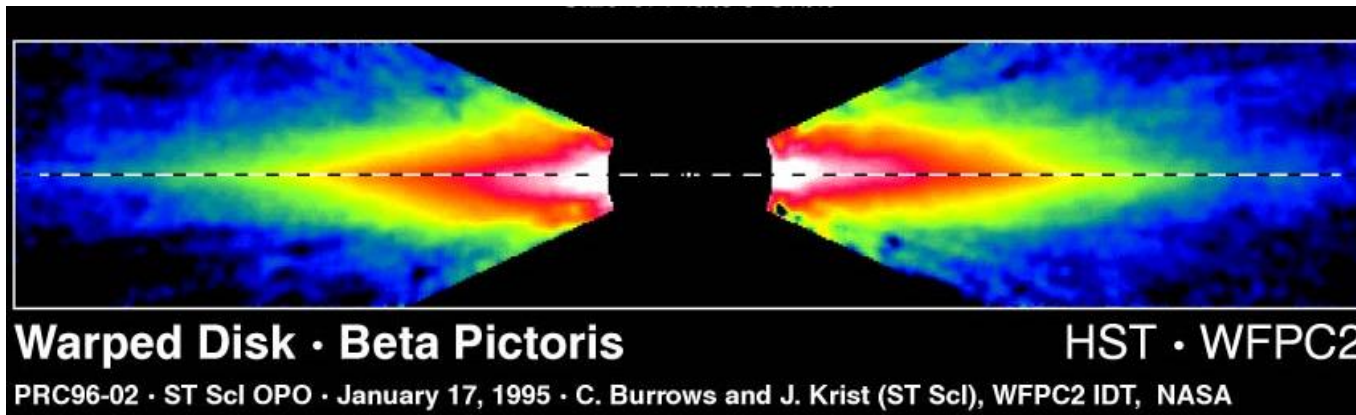


http://spaceflight.nasa.gov/gallery/images/shuttle/sts-103/hires/sts103_726_081.jpg
より転載

「一億個の地球,井田茂・小久保英一郎著,岩波書店」

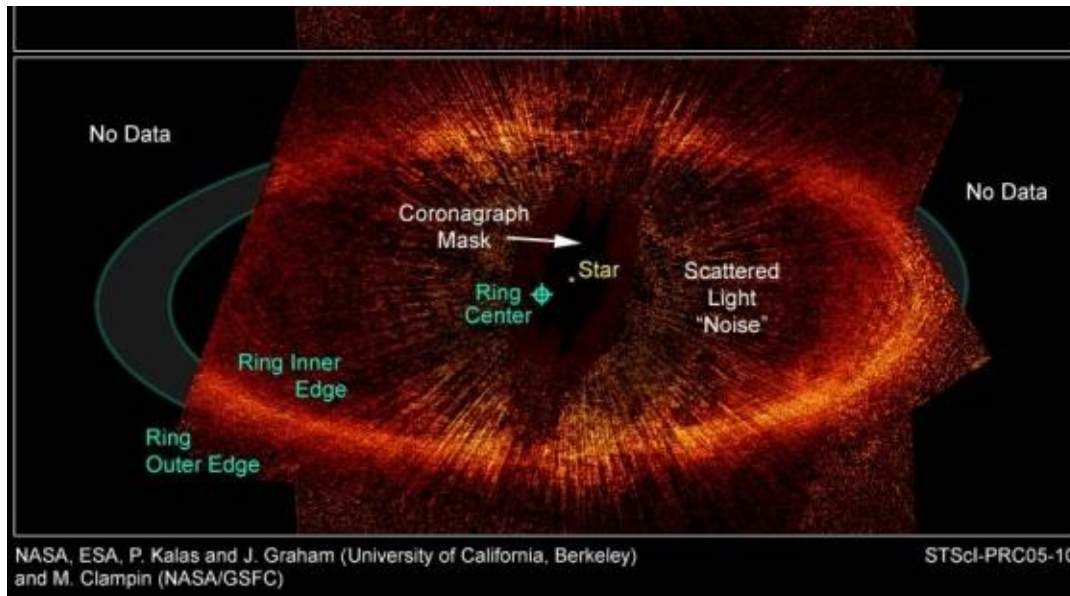
- 円盤状になって中心星の周りを回転
- 微粒子(氷または塵)と気体(ガス)から成る
- 原始太陽系円盤を調べるには、他の天体を見る

原始太陽系円盤の姿



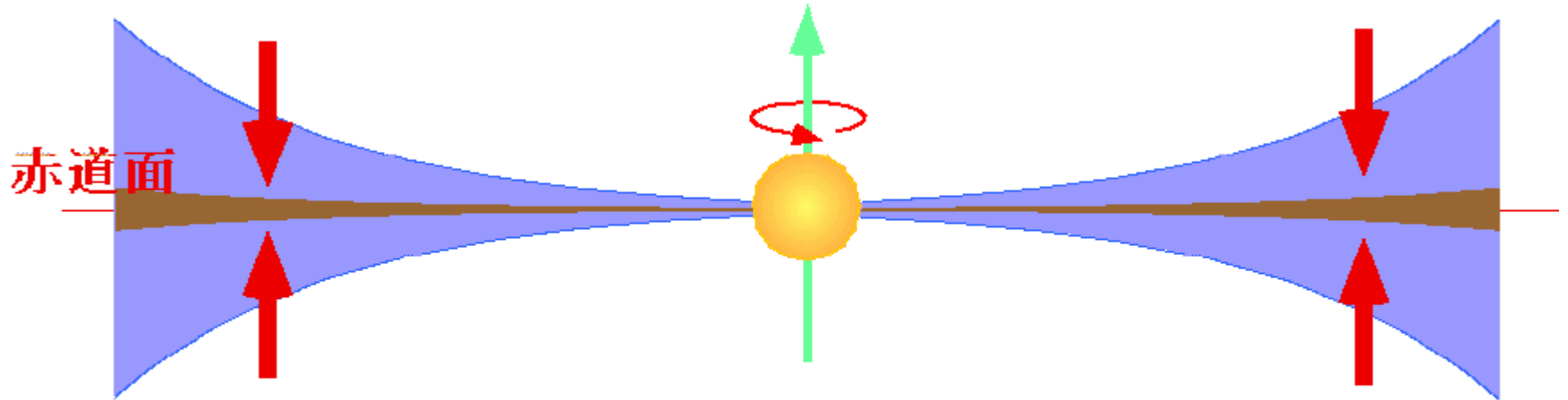
ハッブル宇宙
望遠鏡による
観測

<http://hubblesite.org/newscenter/archive/1996/02/image/a>より転載



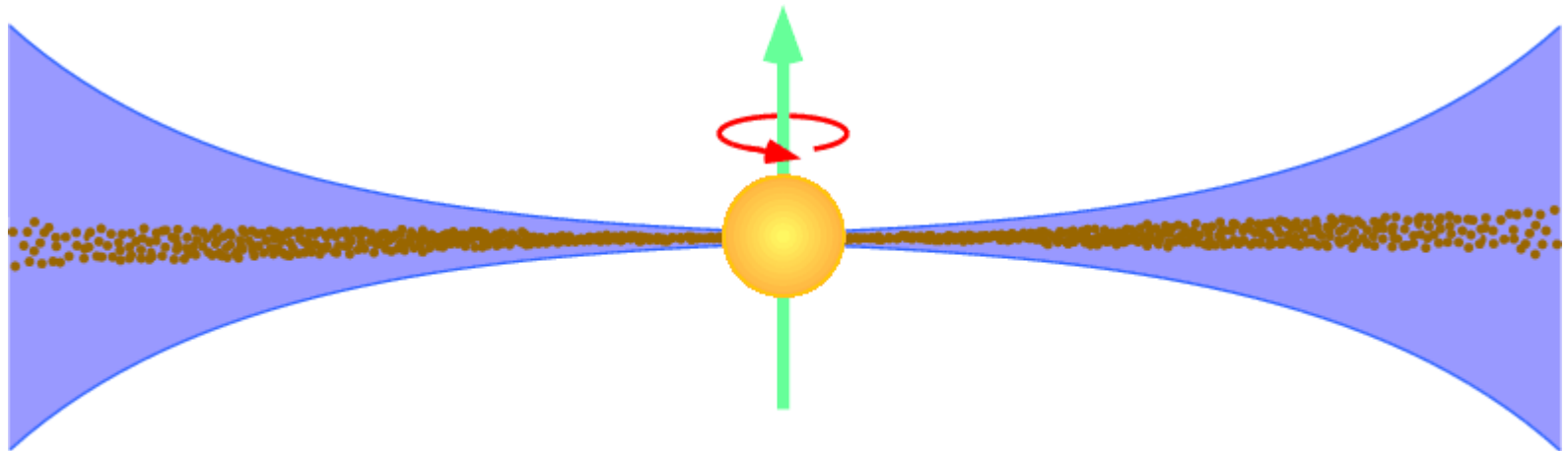
<http://www.solstation.com/starx/fomalhau.htm>より転載

微惑星の形成



ダストが赤道面へ沈殿していき薄いダスト層を形成する。

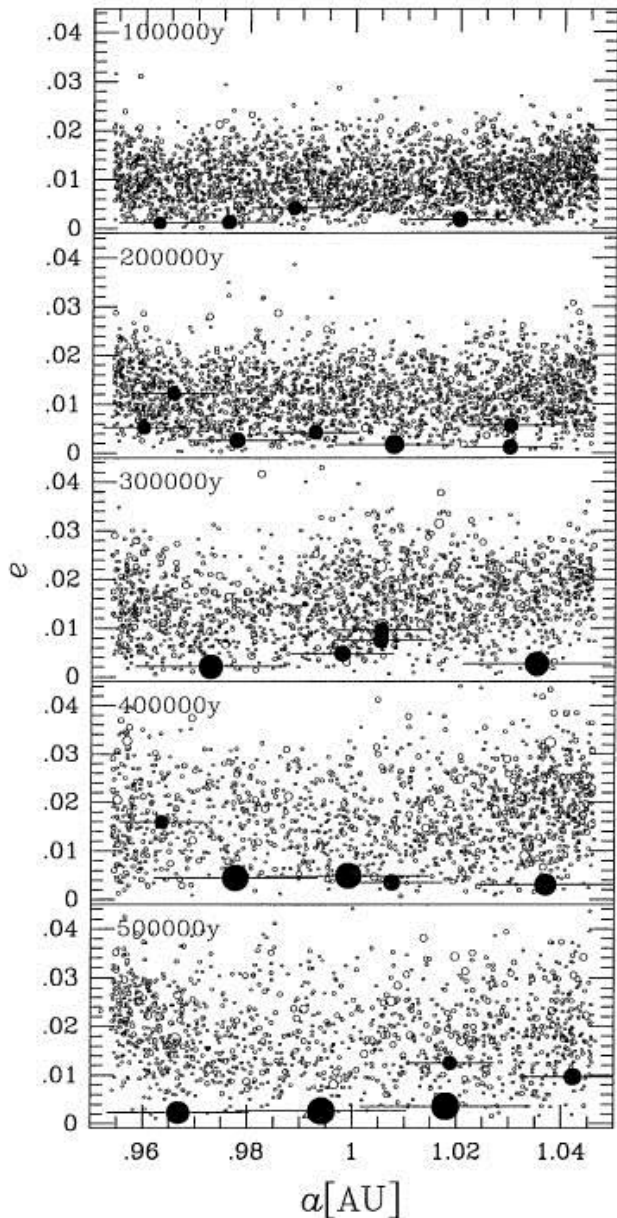
<http://th.nao.ac.jp/openhouse/1998/poster/1997/planet/sedimentation.html>



ダスト層が分裂して、多数の微惑星を形成する。

<http://th.nao.ac.jp/openhouse/1998/poster/1997/planet/planetesimal.html>

微惑星集積の集積～惑星の形成



- 調べる方法は数値シミュレーション
 - 数1000個の微惑星
 - 太陽・微惑星同士に働く重力、ガス抵抗を考慮
 - 微惑星同士が接近した時に何が起こるかを追跡(散乱、衝突・合体、捕獲)
- 膨大な計算量となる
 - 専用計算機も作られている
- 結果
 - 微惑星集積→複数の原始惑星形成
 - 惑星は周りから材料(微惑星)を集めないといけなないので間隔が空く
 - 太陽からの距離により材料が異なる

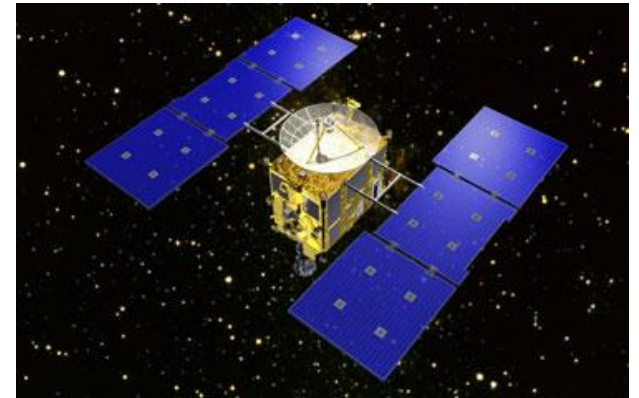
微惑星の姿

- 微惑星の生き残り～小惑星



小惑星 イトカワ

http://www.jaxa.jp/article/special/hayabusa_sp3/index_j.htmlより転載



はやぶさ

http://www.jaxa.jp/projects/sat/muses_c/index_j.html
より転載

巨大ガス惑星の形成

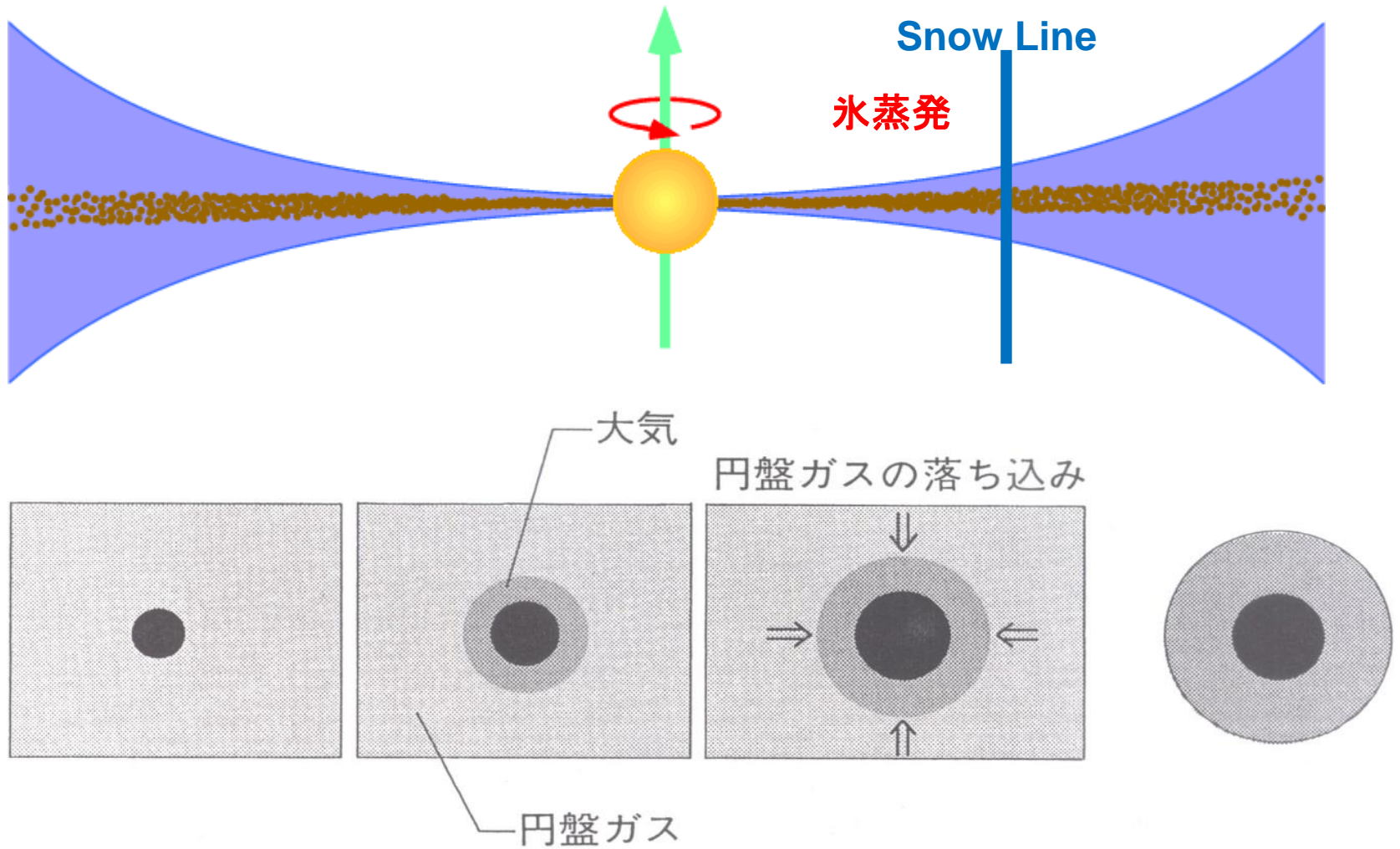
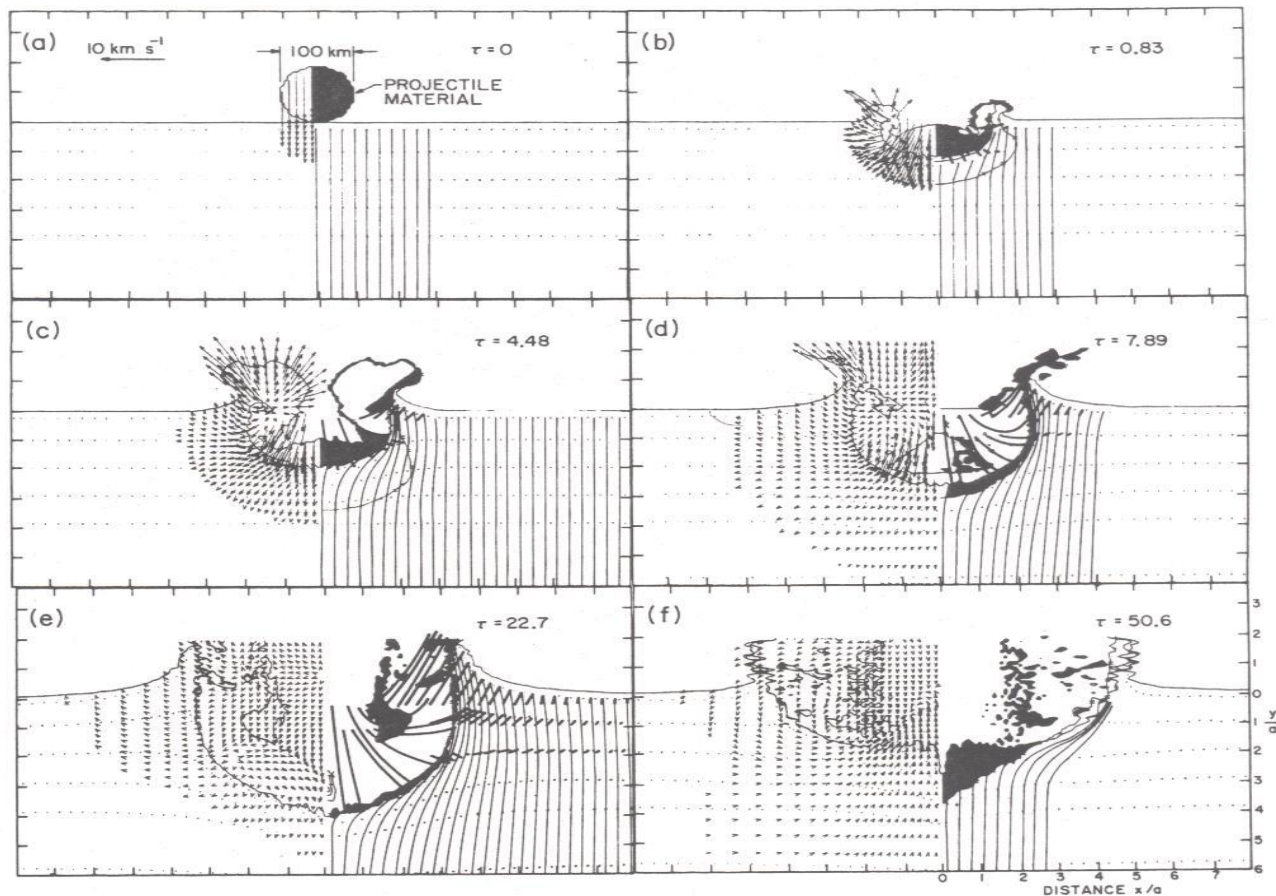


図 13 木星のガス捕獲

「一億個の地球,井田茂・小久保英一郎著,岩波書店」より転載

地球型惑星のその後：衝突脱ガス

- 微惑星衝突の際に水蒸気・二酸化炭素などの気体が放出
- 厚い大気とマグマオーシャンの形成



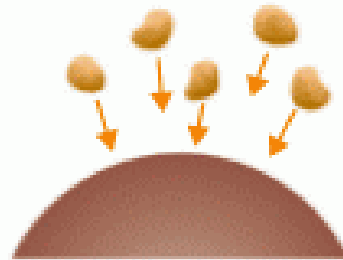
「比較惑星学,松井孝典他著,岩波書店」より転載

今日の計算問題

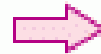
- 地球に直径10kmの小惑星が衝突する際に発生するエネルギーフラックス(1秒間に、 1m^2 あたりに解放されるエネルギー量)を計算せよ。小惑星が持つ運動エネルギーが解放されて地球表面全体に与えられると考える
 - 小惑星の衝突速度: 10km/sec
 - 小惑星の密度: 5g/cm^3
 - 小惑星衝突イベントの時間スケール: 1sec

原始地球の形成

初期原始地球 (半径約 750 km)



直径 10 km 程度の無数の微惑星が数十 km/s の速さで衝突・合体して成長し、初期の原始地球ができる。

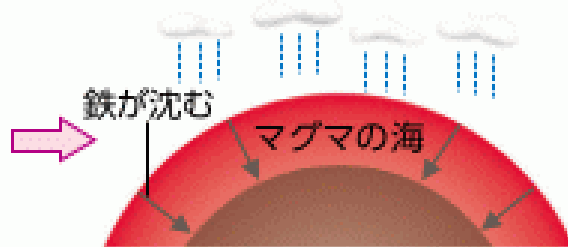


水蒸気 二酸化炭素 窒素



衝突で微惑星内部のガスが放出され (衝突脱ガス), 原始大気* になる。
*ジャイアントインパクト後のマグマオーシャンから放出されたガスが大気になったという説もある。

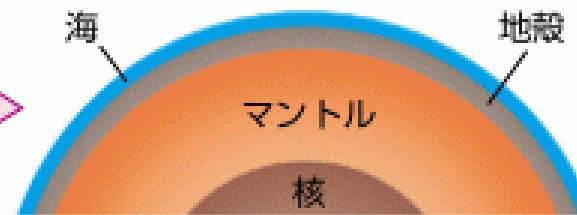
雲 (水蒸気100気圧)



衝突のエネルギーと大気による保温効果で岩石がとけ、地表はマグマにおおわれる (マグマオーシャン)。密度の大きな鉄やニッケルは沈んで核になる。



原始地球



マグマにおおわれた表面は冷えて地殻になり、水蒸気は海になり、現在のよ
うな層構造ができる。大気中の二酸化炭素は海に溶け、温室効果 (▶ p.159) が弱まり、気温は低下した。

月の起源



地学図表P.21

太陽系の形成過程

